

日本茶を通して日本文化を世界へ

杉本製茶株式会社



会社概要

MISSION

日本の農業を救うため、本物の日本食材を世界中に発信し、人々に感動を与える。

その結果として、世界中の人々の生活をもっと健康に、もっと豊かにする。

設立： 1946年

所在地： 静岡県 島田市 横岡242-1

資本金： 10,000,000円

従業員数：14名

業務内容：緑茶精製加工、海外輸出、OEM



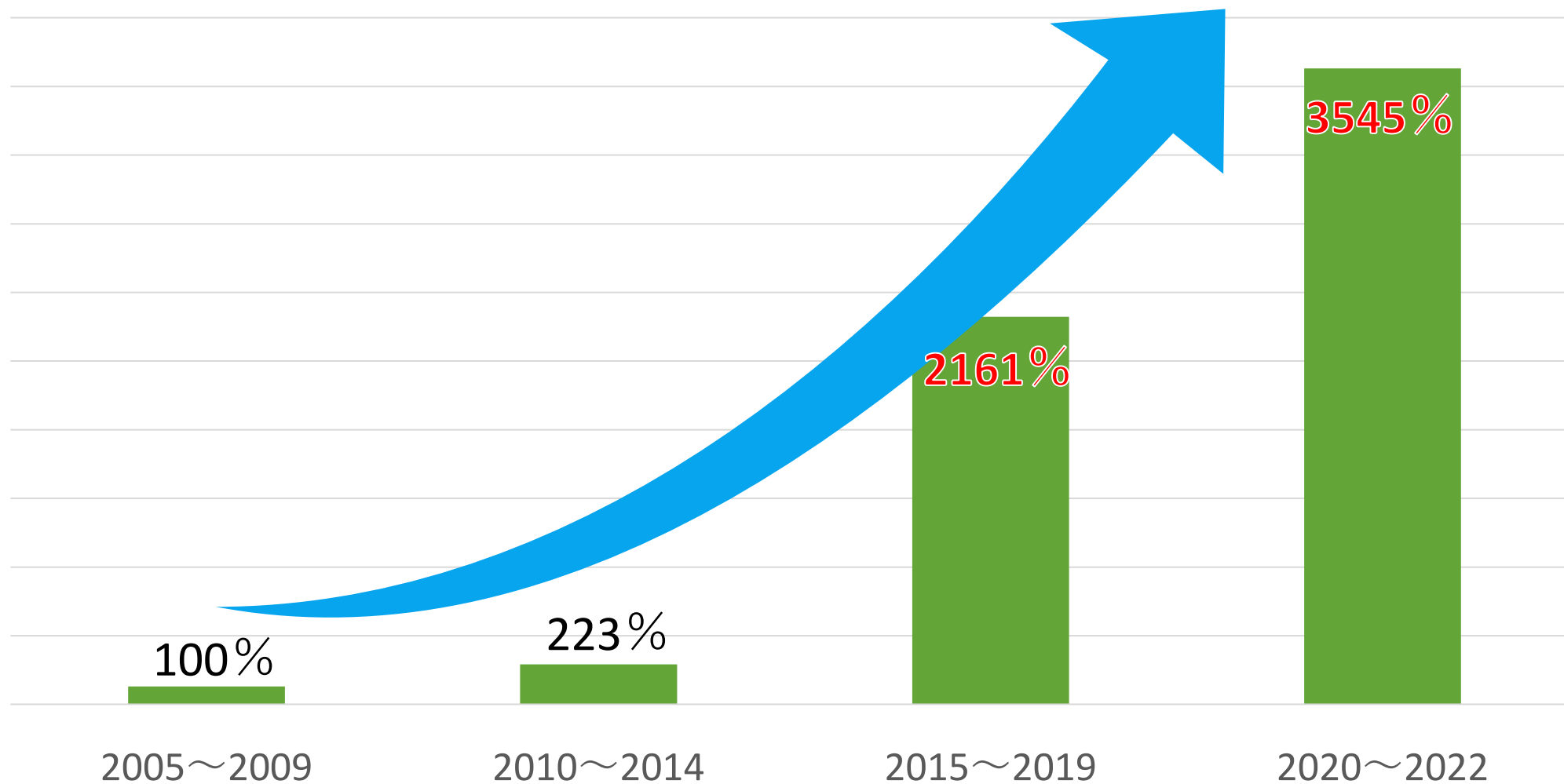
米国法人 Sugimoto Tea Company

- 設立： 2005年米国ワシントン州シアトル
- 社員数： 13名（2022年7月現在）
- 事業： 商品開発、PB開発、販売、マーケティング、啓蒙活動・教育

アメリカ北西部の豊かな自然に囲まれたワシントン州・シアトル近郊に、インターナショナルオフィスを構えています。1000年以上の歴史を持ち、今なお私たち日本人の生活には欠かせない日本茶。その長い歴史の中で様々な飲み方や種類が生み出されてきました。現在この文化は海を越え、それぞれの国のライフスタイルに溶け込みはじめています。



5カ年ごとの輸出実績額推移



輸出用抹茶専用の新工場の新設



2019年には、海外で拡大する有機抹茶の需要を取り込むため、輸出用抹茶専用の新工場を建設しました。この工場は、平成29年度 農畜産物輸出拡大施設整備事業を活用して実現しました。

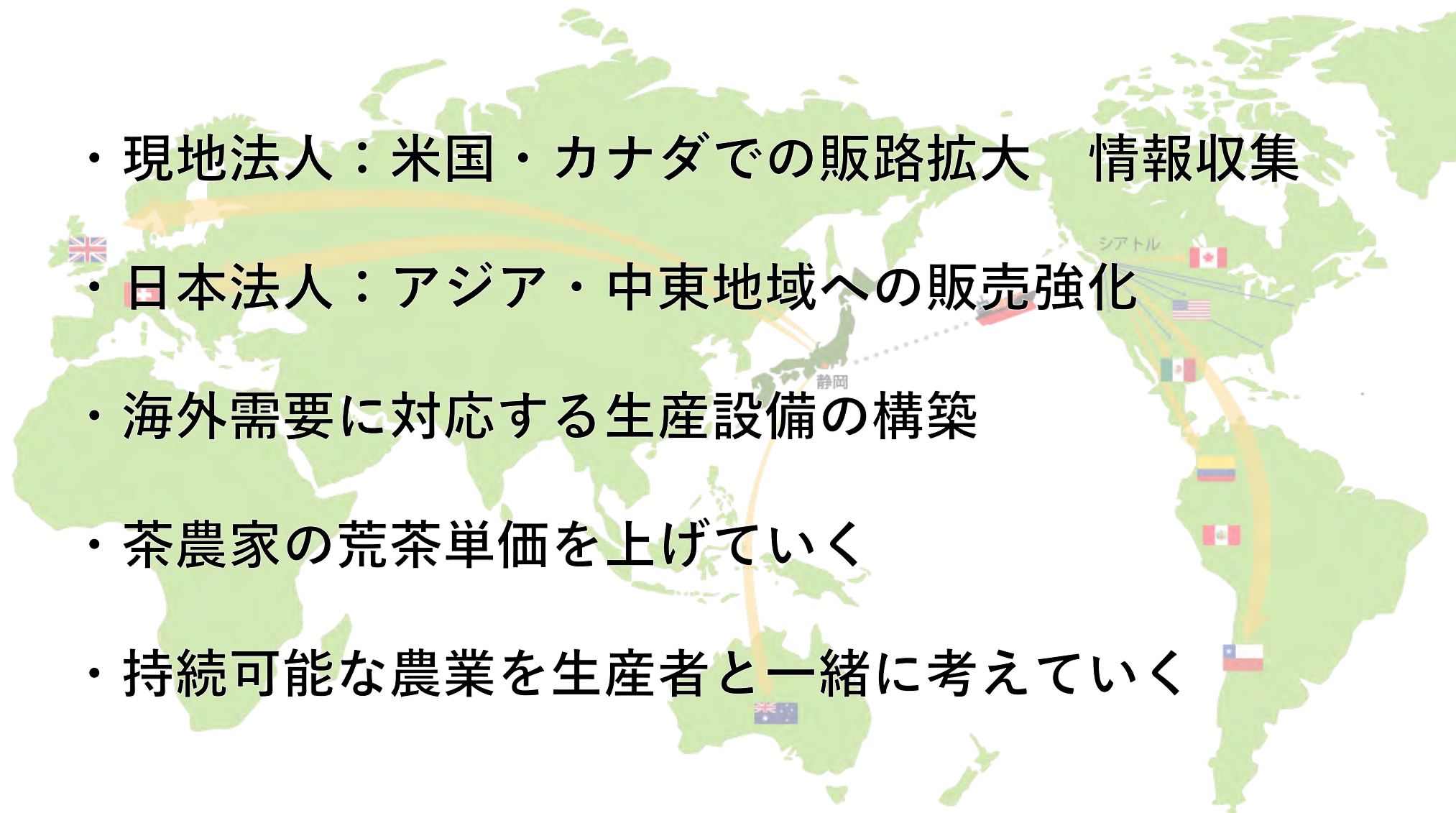
浜松有機茶推進協議会について



- ・ 2020年7月に発足
- ・ 主要メンバーは浜松市北部の春野地区生産者、当社その他・静岡県西部地区の製茶会社
- ・ 同地区では山間の立地を生かし20年前から地域全体で有機栽培を開始
- ・ 高品質な有機栽培のお茶を国内外に出荷

今後の展開

- ・ 現地法人：米国・カナダでの販路拡大 情報収集
- ・ 日本法人：アジア・中東地域への販売強化
- ・ 海外需要に対応する生産設備の構築
- ・ 茶農家の荒茶単価を上げていく
- ・ 持続可能な農業を生産者と一緒に考えていく



【輸出国の法規制に対する理解度の検証】

・ 2011年 福島原発の事故を受けて、EUに輸出された静岡茶からセシウムが規制値以上に検出された事例が発生しました。この出来事により、世界各国は日本茶の輸出に対して厳しい規制を導入し、茶の輸出は非常に困難な状況になりました。

これは、一つの国での事故が全世界に規制強化の波を広げる典型的な例です。輸出の拡大において、新たな参入事業者を増やすことは非常に有効な手段ですが、規制を十分に理解していない事業者も増える可能性があります。そのため、規制遵守ができない事業者に対し、規制に関する理解をしっかりと促す対策が必要です。

意見・要望

【輸出国での価格調査と適正価格での販売】

・日本国内では、長期にわたるデフレの影響により、茶の販売価格が低迷し、利益率の低い商品が一般的になっています。
このため、利益率の改善を目指し、新たな事業者が輸出市場に増加しています。これに対応して、国や県などでも輸出に対する補助政策が多数導入されています。しかし、新規参入者は、日本国内と同様の価格イメージで販売価格を設定し、商談を進める傾向がみられます。

現地調査が十分に行われていないために、このような事態が発生していますが、補助を利用して日本茶の価値を下げるのでは本末転倒です。輸出に関連する補助事業では、日本茶のブランドイメージを保つため、厳格な審査基準を設ける必要性が高いと考えます。また、この審査基準の中には自社の利益だけでなく生産農家に対する原料価格向上も含め、輸出を活用した持続可能な農業を実現することが重要と考えます。



杉本製茶株式会社

<https://sugimotojapan.com>